

若き天才ピアニスト

外山啓介 & セントラル愛知の 「ビューティフル・クラシック」

サントリー・ホール(大ホール)をはじめ、全国各地の大ホールで完売続出。異例のスケールでデビューした、クラシック界話題騒然の大型新人、外山啓介が東海地方に初登場!!

1984年生まれの23歳、東京芸術大学大学院生である外山氏。繊細で、色彩豊かな独特の音色はもちろんのこと、その長身・端正なマスク・美しい指で、今や絶大な人気を誇ります。留学を前に、東海地方に初登場。

実力派オーケストラ、セントラル愛知とのコラボレーションをお聴き逃しなく!!



©Shigeto Imura



外山啓介公式HP <http://keisuke-toyama.com/>
セントラル愛知公式HP <http://www.caso.jp/>

と き：平成20年3月30日(日)

と ころ：サンホール

入 場 料：一般2,000円 学生(小学生以上) 1,000円

※当日500円増

全席自由

※詳細については、順次お知らせします。ご期待ください!

図書館だより

読書の小径

こみち

No.55

市図書館 ☎ 1253

米原万里

ロシア語通訳・翻訳家で小説家、人気エッセイストでもあった米原万里が、がんを亡くなつて1年余りになります。没後に刊行された著作から何点か紹介します。

絶筆となつた週刊誌の連載をまとめた『発明マニア』では、究極の温暖化対策から日本人男性の誇りと自信向上計画、イビキ防止器具まで、この世のあらゆる難問を解決するユーモアたっぷりの119のアイデアを大公開しています。辛口の時事評論、あるいは書評としても読ませます。なお、この本に付された「小さいころから発明好き」と題した、子ども時代の米原万里についての一文を寄せている井上ユリは、万里の妹で、井上ひさしの奥さんです。著者の最初の著作は、19

86年、「シベリア大紀行」というテレビ番組に通訳として参加、厳寒期のシベリアを1万kmにわたり横断した模様を見聞向けの本として著したものでした。この『マイナス50℃の世界』という本も、今年になって新装版となって出版されました。

『終生ヒトのオスは飼わず』。雑誌「ドッグワールド」に連載されたペットエッセーと、単行本未収録の原稿を集めた最後のエッセー集です。前半が犬猫の話、後半が祖父・父・母など米原家の話となっています。

『米原万里の「愛の法則」』。珍しい語り手でもあった著者の最初で最後の爆笑講演集。世の中に男と女は半々。相手はたくさんいるはずなのに、なぜ「この人」でなくてはダメなのか「愛の法則」をはじめ、「国際化とグローバルゼーションのあいだ」、(理

解と誤解のあいだ、(通訳と翻訳の違い)の4つの講演が収められています。

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土	日
						1	8
2	3	4	5	6	7	14	15
9	10	11	12	13	14	21	22
16	17	18	19	20	21	28	29
23	24	25	26	27	28	29	
30	31						

※ が休館日です

図書館の 開館時間	火～金曜日	10:00～19:00
	土・日曜日、祝・振休	10:00～17:00



※図書館のご利用は無料です。